

『百合生徒会長と秘蜜のティールーム』

～ 水泳部 速水スイの場合 ～ 初稿

キャスト

極楽寺 百合 (ゴクラクジ ユリ) ○○○

速水 スイ (ハヤミ スイ) 和泉あやか

後輩

アナウンサー

子供

1 極楽寺 百合生徒会長からの招待状

■速水スイ モノローグ

//ME 優雅なクラシック?お嬢様学校の雰囲気BGM
(ティーパーティーのテーマ的な曲)

スイM 「私の名前は速水 スイ。

小さいころ、自分は魚に生まれてくるはずだったのに、
間違えて人間に生まれてきたのだと本気で思っていた。

水だけが私を自由にしてくれた。泳ぐことで私はどこまでも行けた。
そうしてたどり着いたのが、良家の令嬢が集う名門女子校
『リーガルリリー学園高等部』

私は水泳の侍生として、日本最高の教育を受ける機会を得た……
の、だったが……」

//ME ♪～♪f.o.

■朝 下駄箱ごと

//SE 学校チャイム

//SE 朝の女子高の登校ガヤ

スイ 「(深い溜息)はあ……。ん? 手紙……。?」

//SE 手紙の封を開ける

スイ 「……っ!」

スイM 「このリーガルリリー学園高等部には学園の特権組織で、
選ばれた生徒のみが入会を許される社交クラブがある。

その社交クラブの主催であり、リーガルリリー学園のトップ、
生徒会長であるのが……」

スイ 「極楽寺……百合、生徒会長!これ、ティーパーティーの招待状だわ」

35 スイM 「入学したばかりのころ、すでに引退された先代の部長から絶対に秘密
36 だと教えられたことがある。万が一、自分になにかあった時、百合生徒
37 会長からの救いの手が伸べられるかもしれない……と」

39 スイ 「もしかして……これ、が？」

41 後輩 「「じぎげんよう、スイ先輩！」

43 スイ 「きゃー！ （手紙隠す）ああ、おはよ……」

45 後輩 「あの……今日は、水泳部の練習……来ていただけますか？」

47 スイ 「え？」

49 後輩 「私、タイム伸び悩んで……

スイ先輩の泳ぎを見て勉強させて頂きたくて……」

52 スイ 「ああ、ごめん、今日は無理なんだ……！（と、言いながら行こうとす
53 ね）」

55 後輩 「でも……！ 1週間も練習いらっしやらないから、私心配で……」

57 スイ 「ごめん、大丈夫だから……っ！（走って立ち去る）……「ごめ、ん！」

59 後輩 「あ！ スイ先輩……！」

//SE 廊下を走る足音

63 スイ 「（走る息）はあっ……！はあっ……！はあっ……！」

65 スイM 「何かあった時に……救いの手が……。
66 その時の言葉が……たしか……」

70

71 ■リリー学園女子社交クラブ ティールーム
72
73 //ME 優雅なクラシック?お嬢様学校の雰囲気BGM
74 (ティーパーティーのテーマ的な曲)
75
76 上品でクラシックな室内、目の前には、高級茶器と豪華なお茶菓子が盛
77 りつけられた大テーブルが……。
78
79 スイ 「(息をのむAD)」こじが……社交クラブのティールーム……」
80
81 会長 「お忙しい中ご足労頂きありがとうございます。ご挨拶です。
82 私は極楽寺百合と申します、初めまして。
83 ……といっても、速水スイさん、日本のトップスイマーである
84 あなたの活躍をいつも拝見しております」
85
86 スイ 「はっ……! はい! 私も百合生徒会長のことだ……
87 それは、もう……!
88 あの、本日はお招き頂きましてありがとうございます。」
89
90 会長 「うふふ、私達だけのパーティーですから、堅苦しくなくて結構よ。
91 今日は、あなたのために用意させたお茶菓子とお紅茶ばかりです。
92 楽しんでくださいね」
93
94 スイ 「あ、それがいいですね……! でも、楽しんで……」
95
96 会長 「まあ、お茶を頂きながらのんびりおしゃべりしましょう」
97
98 //ME のんびりfo.
99 //SE 「ポコポとティーポットからお茶を注ぐ音 (時間経過)」
100
101 会長 「まあ、吉尾コーチ?」
102 西海大学水泳部監督とJOCの強化コーチも兼任されていた方だね」
103
104 スイ 「はい。お詳しいんですね」
105
106 会長 「ええ、私も幼少のころ水泳を習っていたの」

107 スイ 「そうでしたか……どうかのプールサイドですれ違っていたかもし
108 ませんね……って、か、会長のような方が一般市民が通う水泳クラブに
109 くらっしやるわけないかー」
110
111 会長 「でも……吉尾コーチはちゃんとあなたを見つけ出して、ここまで育て
112 られたわ」
113
114 スイ 「はい……私のことを、人魚姫だと言って、それは熱心に」
115
116 会長 「うふふ、コーチらしい」
117
118 スイ 「だから……今の私を見て、ガッカリしていると思います。
119 会長も、それで私をお呼びになったのでしょっぴ。」
120
121 会長 「……聞かせて頂ける？」
122
123 スイ 「笑われるかもしれませんが……ある日、数字が……泳いでる私の手足
124 じまとわりつっくようになったんです。その数字は、私が出てきた
125 記録タイムなのか……あ、わかりません。
126 それはタールみだらじつ真っ黒じつ粘りじつ臭い……日じつ日じつびじつ
127 じつ重くなっくじつ。」
128 当然タイムは伸びなくなるどころか、どんどん落ちていきまじつた。
129 そんな私を今のコーチたちは叱ったりなだめたりしましたが
130 何も改善されません。
131 毎日のようにチームメイト、後輩、スタッフ、ファン、親からの叱咤激
132 励、悪口、慰めの言葉……そんなものを浴び続けて……
133 気が付いたら、水に触れられなくなりました」
134
135 会長 「……」
136
137 スイ 「水が……怖いんです。水の中でしか自分でいらなかったこの私が…
138 ……水に入るの怖いんです。
139 今では湯船にも浸かれませんが。重症です。
140 私……もう、どこにも居場所がありません（泣く）」
141
142 会長 「……だったの……お家の事……」

- 143
144 スイ 「(決心の大きなため息)……はあー！「open your eyes をひたれよ！」」
145
146 会長 「……！ ……その合言葉を「存じ」とは、やはりがわが校のスター選手ね」
147
148 スイ 「お願いします。早く……泳げるようにならないといけなんでしょう」
149
150 会長 「その合言葉の意味は「存じ」？」
151
152 スイ 「会長から救いの手が差し伸べられるとだけ」
153
154 会長 「それは全てを私に委ねて構わないという意味だけねども……」
155
156 スイ 「はい、構いません。もう、藁をもつかむ思いなんです」
157
158 会長 「承知したわ」
159
160 //SE 紅茶を作る茶器の音
161
162 会長 「「open your eyes」だね、1Jの学園の生徒会長職を受け継ぐものごだ
163 け入れ方を伝授される特別なお茶の名前です……」
164
165 //SE 紅茶をテーブルに出す音
166
167 会長 「やあ、召し上がね」
168
169 スイ 「「J」の……いただきます……」
170 (グイッと飲み干すAD) ……「はあ、いちそうまでしたー」
171
172 会長 「よろしい。速水スイさん、我が社交クラブの特別ルームへようこそ」
173
174 //SE 部屋の奥の大きなカーテンが開く音
175
176 スイ 「……お！……うー！1Jの部屋の奥に、まだこんな広いベッドルームが
177 あったなんて……」
178

179 会長 「これから秘密のセッションを行います。……本罪じつじつのね。」
180
181 スイ 「……はい」
182
183 会長 「……では、私の手を取って。じつじつ……スイちゃん」
184
185 スイ 「じゅん……」
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214

終わる

12 百合会長と秘密のセッション・開始♡

- 215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
- 社交クラブティールームのさらに奥の部屋
- スイ 「すいお……い。素敵なベッドですね」
- 会長 「プラザのエロイスにあったものが気に入って同じものを。あなたにも気に入って貰えたら嬉しいわ……」
- スイ 「え？」
- 会長 「そいよ、いかに横になって頂いて……
これからちよっとした催眠を、あなたにかけてたいと思います」
- スイ 「そんなこと……できるんですか？」
- 会長 「やあ？ かかって頂けるかどうかはあなた次第。
では、リラックスしていただくために、制服をお預かりするわね」
- スイ 「ぬ、脱ぐんですか？」
- 会長 「うが、すべてを私に委ねても構わないとお聞きしていただけたわい。」
- スイ 「……もちろんです、脱ぎますー」
- 会長 「いびび、勇ましい。私が脱がして差し上げたかったんだけど……
逆に緊張わかったかもいかな」
- スイ 「(制服を脱ぐ時AD)」
- //のE 制服を脱ぐ リボンをほぐす音など
- 会長 「まあ、下は……水着。」
- スイ 「まだ、いっ泳げる日がきてほしいわい、水着を着て生活してほしいわい」

286 スイ 「体を撫でられたくすべったい息△△」

287

288 スイ 「(胸を下から掴まれて) あんっ、…っ、会長…そっ、は……」

289

290 会長 「弾力があって、でも私の手に余るほどの大きさ……とってもキレイな乳

291 房ね。あらっどっしたのかしら、乳首……」

292

293 スイ 「んんっ……んんあ」

294

295 会長 「まだ緊張してるのかしら。…っかさ、ほっごもごめん」

296

297 スイ 「ふああっ……！んっ、んん……んっ……んっ……あう……んんっ。

298 かい……ちよう、ちようっ……」

299

300 会長 「んんかっんっ？」

301

302 スイ 「これは……なに、を……」

303

304 会長 「深い催眠状態になって貰ったためのマッサージを」

305

306 スイ 「でも、ごんな……」

307

308 会長 「そっ、ね。もう少し詳しく説明をいたしまごめん。

309 この部屋、フロアの香りがついているの、気が付いてるのかしら。…っ

310 深層心理へ届くために特殊な配合をされているものでね、

311 この匂いで導いてもいらながらあなたの無意識の領域まで行き、

312 水が怖いというシータを水は良いものだと言え換える作業をするの。

313 マッサージはそのために必要なものだけ……

314 あなだが嫌ならおひさまね。

315 でも、もっ……私に任せ頂けるなら……」

316 っごも……(胸を揉みっご)

317 スイ 「んあっ……っー、はっ、あ、ああ……んっ、

318 乳首ほっかさ……」

319 っごも、なごっ」

320

321 会長 「んっ。(乳首をっごっごもごめん)」

358 スイ 「ええ!？」
359
360 会長 「私は構わないわ。じじいには誰も来ない。
361 声が出てしまつたら、身体がしたらいよいよじゃなれど」
362
363 スイ 「そんな、(乳首つまむ)んあーっー
364 (乳首布越しカリカリ)んっ…、ん、ん、…っ、っふあ、…あん、あ
365 んんっ…。(口で声抑え)…ふっ、んっ、んんー、んんー、っはあ、
366 んんっ、んむっ…会長っ…水着越し、っ、乳首…弄らわ、たら…
367 …感じすぎ、っ、つまります…こんな、声…はず、かっし…っー」
368
369 会長 「そんなじじいじゃないわ、じじいもかわいらしいわよ」
370
371 スイ 「かわ…いい!? んあーっー…っはあ、っはあ、…あひんひん…
372 いや…んああうっ…はあ、はあ、会長…だ、め…おっぱいそんなじ、
373 カリカリされたら…わた、っ、…っもっ…っー」
374
375 会長 「そっ? では、次の段階ね。私の手を、水だと思っっっっらんなれど」
376
377 スイ 「……え?」
378
379 会長 「水はあなたを包み、守り、抱きしめるものだった。こんな風じ…
380 あなたを気持ちよむせせしむねる存在だったはずよ」
381
382 スイ 「…っあ、(少し恐怖で強張る)んんっ……」
383
384 会長 「大丈夫、水はあなたの敵じゃない。手を、貸してっ。
385 ……ちょっと失礼。(指舐め)んちゅ ちゅんん、んちゅんちゅん」
386
387 スイ 「んあう! あ、ああ……会長が、私の指を…っあ、ああ……」
388
389 会長 「んちゅるっ。んはあ……私の唾液も水分だけっ…怖っっ」
390
391 スイ 「い…いえ……」
392
393 会長 「んっ⑨NON⑨」

394 スイ 「んふあっ……！ あっ…、かいちよひの……舌、きもち、いい……
395 舌が…指先……から、み、ついで……」
396
397 会長 「んふ、んじゆる、ちゅっ、ちゆるる、へるへる……んじゆるる、ちゅ
398 nen、ちゅぱちゅぱっ……んじゆるる……ちゅnenen」
399
400 スイ 「っはあ、あ、んんっ……！ 指の先っほ……きもち、いい……！
401 会長…ああ、ん、…会長の舌…えっち……えっち、です……ダメ、我慢
402 ……出来ません……（自分から顔を近づけ、キス）あむっ…うん」
403
404 //AD 二人キス息
405
406 会長 「んはっ……。今、交わし合った唾液も水分よ？ 怖い？」
407
408 スイ 「じわく、ないです。あ…かいちよ、もっと…もっと……ですっ……！」
409
410 //AD 二人キス息 キスされながら乳首カリカリされる
411
412 スイ 「んっはあ……あっ、ああんっ、会長、おっぱい今敏感だから……
413 あむっ…んっ（キスしながら）んちゅ、ちゅるっ……キシユしながら…
414 そ、んなに…乳首、カリカリ……っあ……擦られたら……んちゅっ、ち
415 ゅぶっ、ンチユるるっ…や、やあ…っはあ、はあ、んあっ…んっっ、ん
416 んんー、んんんー」
417
418 会長 「そっ？ じゃあ、じつちにキスしようかな」
419
420 //AD 会長 おっぱいへるへる
421
422 スイ 「ふああんっ！ あ、っはあ……っ、うっ…あん…おっぱい…舐めちゃ
423 ……だ、めえええっ……！」
424
425 会長 「(水着の上から乳首舐めまわっAD)」
426
427 スイ 「うああ…んっ！ や……あ……あっ、あっ、ンあ…っ！
428 先っほ……吸わないで…水着越しが…じれったくて…ああっ、んっっ…
429 はあ、はあ、はあ…っ…んっっ…んんっっ…っっっ、ぶっっっ

430 ……おわが、うう……」

431
432 会長 「そごね、お水は気持ちいいわね。そして……あなたの身体にはね、
433 ちよこちゃん、お水が湧きたまじうのがあってよ。」

434
435 //S1 秘部に触れる衣擦む

436
437 スイ 「ひゃうっ！ あっ…… 会長……そじ、お……
438 (AD おんじやのVS撫むらむの扉ーの秘V(AS))
439

440 会長 「あらあら、びちよびちよじゃない。水着から溢れちゃってる。
441 先端が敏感になっちゃってるから……ひぶん、クリトリスが熱くなって
442 ……充血して膨らんぶるの……布越してもすべわかるわよ。
443 じじも…爪でクリクリして差っ上げまじおね」

444
445 スイ 「あ…ダメ…… (クリクリ)っはああっ！ んあっ、はっ、っ！
446 ああ、ああっああ……あ……！ ん…ん……！ あっ…ん…ん…ん」

447
448 会長 「そごよ、いい声が出てる。身体が思ってる……お、出っ……」
449

450 スイ 「ああ、ああ、あ！ っ…ん…ん！ っ……あああう、あっ、ああ…
451 あ…ああ！ ん…ん…ん……！ かい、ちよ…これ…強、すぎ……れすう
452 ……！ ああ…あっ…ん…ん…っ…っ…あああ………！ ああああ！
453 ……や、だ…こんな…はしたない、声……ん…ん…ん…あっ、
454 奨学金で…じじ、じ、うるの…水、怖くなっちゃって……
455 こんな役立たずなの…気持ち、いい……気持ちいいよお……っ。
456 んあっ、ん…ん……っはあ、はあ、んあっっ！…こんな…私……
457 嫌い…ならなら、っ…っだ、わう……っはあ、はあ……っ」
458

459 会長 「ひぶん、バカね。こんなにかわいい声を素直に聴かせてくれる子をど
460 うやめて嫌いになれというの？ ……はあ、スイ………とってもすてきよ
461 ……。あなた、今…じじに私の劣情を掻き立ててるか、わかってる。」
462

463 スイ 「ほん……ど、ですか？ うれ……っし……っ…ん……
464 ……あ……あ……！ ああん…」
465

466 会長 「……じじ、すじい音。どんどん愛液が溢れてきて…
467 腰が勝手にガクガクしてる……。気持ちいいのね、スイ……」
468

469 スイ 「んうっ…きも、ち、いい…です……」
470

471 会長 「私の手は水……私の手は水よ？ 思い出して……」
472

473 水はあなたを丸ごと包み込んで、あなたをこんなに気持ちよくさせてく
れる存在だったはずよ。

474 あなたの大事なところからだって…こんなに溢れ出しているわよ…っ」
475

476 スイ 「はい、気持ちいいです…きもち、いい……んあひらひらっ、会長、もっ、
477 ダメです……身体が熱いんです、布越しじゃ我慢できない……あそこが切
478 ないの……会長……会長……」
479

480 会長 「あらあら、泣かなくていいのよ。
481 そっね、そっいえば私も喉が渴いてきたかしら……」
482

483 //SE 衣擦れ 水着をすらすら
484

485 スイ 「じじ、そ……私の、お水……飲んでください……」
486

487 会長 「あら、うぶぶ、じじ寧ろ自分で大事なところを露わにしてくださいって
488 ……。まあ、とってもおかしそう。ありがとう、スイ。
489 (クニニAD) ……クニニ、クニニNone」
490

491 //SE クニニ音
492

493 スイ 「……………っふあっああんっ！ んあっ、んうっ、んんっ、んあうっ、
494 っはあ、はあはあはあ……っ…んっ…ああ……会長が…わたし、の……
495 舐めて、る……っ…っ…っ… はあ、ああ、舌っ…会長の、舌……きもち、
496 い……ああ……ああーああああひらひら……っ…
497 んん…あああっ！ う……ああ、ああ、ああっ…ああ、ああ、ああっ
498 …！ クリ、そん、なに、吸われたら……っ…っ…っ…うっ…んん…
499 あー…ああー…ああー…ああー…き、もちいいーき、もちいい
500 ー…会長の舌、すじ…っ、です……っはああっ…
501 っはあ、はあ、はあ……」

574 スイ 「んああああっ！ うああ……あああ……はあ、はあ、はあ、んん……
575 はあー……はあー……はあー……」

576
577 会長 「ああ……素晴らしいわ、スイ。すべてを解放して、受け止めることが
578 できたわね。……どう？ 久しぶりに水と戯れた気分は？」

579
580 スイ 「はあー……はあー……すじ、かった……です……。
581 ノーフレス練習やり切った時より……きもち、いい……」

582
583 会長 「よろしい。では、今日のカウンセリングはこれでおしまいだねど…
584 ……次は、明日。同じ時間にいらしていただける……？」

585
586 スイ 「はあー……はあー……ハイ♡ もちろん……です」
587
588
589
590
591
592
593
594
595
596
597
598
599
600
601
602
603
604
605
606
607
608

終わる

609 1-3 百合会長と、雨の中バルコニーでのセッション♡

610

■社交クラブティールームのむらに奥の部屋

611

//SE 2回ノック めっぐりと扉がひらく

612

おんおんおんスイが入ってんぬ

613

614 スイ 「失礼……します。会長……？ いらっしゃいますか……？」

615

//SE 奥の部屋へ歩く靴の音（カーペットの上）

616

617 スイ 「まだいらっしゃらないのかしら……？」

618

会長おー……？ いらっしゃいませんか？」

619

620 会長 「（奥から）いじめ」

621

622 スイ 「あ、会長……！ すみません、遅くなっちゃ……して……」

623

//SE 部屋の中から聞く雨の音

624

バルコニーで雨の中ただよむ会長を見つけて慌てるスイ

625

626 スイ 「会長……！ じんな雨の日バルコニーで何やねてるんですか……？」

627

早々中へ……！ 風邪をひくっつまごまご……！」

628

629 会長 「あら……あなた知らないの？ じんな日の雨って、暖かくて優しくて

630

……！じんごつごんご保持ちがらうのち」

631

632 スイ 「でも……」

633

634 会長 「今日のカウンセリングはじじで行きます。一緒に雨に濡れてみまごち

635

う。今日も下は水着かしら？ 制服を脱いでバルコニーへいらっしやう」

636

637 スイ 「そんな……会長のお召し物が濡れてっまごまごち」

638

639 会長 「そんなじじ配って頂けなう……！早々っついでわらなうごち」

640

641

642

643

644 スイ 「! ……は、はい! ただいま……!」
645
646 //SII 先ほども強さ隠す ひたひたまで
647
648 スイ 「会長……」
649
650 会長 「ひひひ、来たわね」
651
652 スイ 「やっやっ、隠が強くなっつわいませ……やっはSのお部屋の中へ……」
653
654 会長 「待っっ、そっ止まっ」
655
656 スイ 「は、う?」
657
658 会長 「よっ、見やっ」
659
660 スイ 「何…をですか?」
661
662 会長 「貴女を……よ。良っ日焼けした肌に、引き締まった長い手足……アス
663 リートの美しい身体、好きなのよ、私」
664
665 スイ 「会長……」
666
667 会長 「……」
668
669 スイ 「そんなに見つめられると……恥ずかしい……っわ」
670
671 会長 「……」
672
673 スイ 「会、長お……」
674
675 会長 「スイ、雨は怖い?」
676
677 スイ 「……そっいえば。考えたこともなかったですが、雨は平気みたいです」
678
679 会長 「ん。っは、まっんごっごっ構わなごっ」

680
681 スイ 「はい、ですが……そんな濡れたままでは風邪を……」
682
683 会長 「じゃあ、スイが温めてちょうだい」
684
685 スイ 「え？」
686
687 会長 「あなたを抱きしめても構わない？」
688
689 スイ 「……！ は、い……もちろんです」
690
691 //SE 抱きしめる衣擦れ
692 //AD 会長 抱きしめる音
693
694 スイ 「(抱きしめられる)はっ……んっ っ、めた……」
695
696 会長 「……ふう、あなたは温かい……スイ……」
697
698 スイ 「(見つめ合ったままキス)会長……お……んちゅ、
699 んあっ……んちゅねね、はあ、んちゅねね」
700
701 //AD 二人 キス音
702
703 会長 「んは……っ。雨の中でキスをする……濡れそうになるわね」
704
705 スイ 「はあ、はあ……会長…… (キス)んっっ」
706
707 会長 「(キスしながら)雨の……水に、私とあなたの……唾液が混じって……
708 ちゅるっ……スイ……かわいい、スイ……」
709
710 スイ 「(キスしながら)んっ……はあ、美味しい……んちゅっ……ちゅっ……
711 お水……美味しい……んちゅっ、ちゅぱっ、ちゅねね」
712
713 会長 「(じゅるで……スイ、どうして(じゅもびしょびしょなの?)」
714
715 スイ 「(あそこ触られる)あふっー」

752 会長 「囀の中を走りこむ練習もあるみたいだけど……
753 ぞひな、まっぴ、囀の音がかま消してゐるわ」
754
755 スイ 「(自分の口をふくむ音)」
756
757 会長 「やあ、身体中で水を感じながら……私の舌を感じて……
758 水は気持ちのいいもの……水は、気持ちのいいものなのよ……
759 んちゅねね……」
760
761 //AD 会長クンニ息
762 //SE クンニ音
763
764 スイ 「(口塞いで) んんっ！ んふっうっ……！ ん……んん……んん！
765 あ……ん……んふ……う……うっうっ、っふ……う……！あ……！ っん……ん……
766 ん……！ っ……あ……うっうっ……！ っ……あ……！ う……う……うっうっ
767 うっ……うっ……」
768
769 会長 「うっふ……そっ、我慢して。お外でイクなんてはしたないわよっ。
770 我慢、我慢……」
771
772 スイ 「(口塞いで) んんっ……ふんんんん……」
773
774 会長 「うっふ、我慢……よっ。(指を入れる)」
775
776 //SE 指入れ水音
777
778 スイ 「(口塞いで) んんんん……！ かい……ちょ……！ゆ、び……は……！」
779
780 //SE 手マン水音
781
782 会長 「ハイハイ、うっ、でっよっ。」
783
784 スイ 「んあっ……」
785
786 会長 「ほふ、声、うっのっ。」
787

860 スイ 「もう、いいんです。なにを聞かれたって……どんな私だって……もう、
861 誰にどう思われようと構いません。だって、こんなにあっちな女の子が
862 ……私なんですよ」

863
864 会長 「ひひひ。そっ、ね」

865
866 スイ 「だから……そんな……ことよりも。会長……もっと……。もっと、です」

867
868 会長 「もっと……なめこっ」

869
870 スイ 「もっと、していただけます。もっとイキたい！ 私、まだ足りない……！」

871
872 会長 「そうよ。外野の声など聴かず、自分の欲望のまま闘志を燃やす。

873 それでこそトップアスリートである本来の貴女の姿なのよ。
874 ……でも、同じじゃああなたの身体が冷えてしまっから……
875 じじらへへ案内するわ」

876
877 //SE スイを抱き上げる音

878
879 スイ 「きゃー！ 会長……お姫様抱っこなんて……！ 私、重いですから……
880 おろこっただわろ……！」

881
882 会長 「あら、羽のよう」軽いわよ。それに……こんな状態で立ってるっ」

883
884 スイ 「……！ (恥ずかっ)」

885
886 会長 「お連れするわ。特別ルームの隣は、バスルームになっているのよ」

887
888
889
890
891
892
893
894 終わる

930 ひび、そなた、じ、強〜……♡♡♡、わたっ……だ、ら、……ひああ
931 っ♡♡」

932

933 会長 「んん……かなう声……もっと聴かせて……」

934

935 スイ 「んあ、はあはあ……ひひひん、んんっ、わ、たしも……

936 会長の……触っっ、うっっが……っ、はあ、はあはあ……」

937

938 会長 「まじ、うちうち許可を取らなくても結構よ。私は、じっつと……

939 私にやらっつゝたぬ、あなたの全てを見届けたいの。

940 あなたのったっじっせ、ったっまっじ……」

941

942 スイ 「(だっのせいだんぬ) っせあ……」

943 かっ、ちまひ……。(会長のまんじっ触れぬ)」

944

945 会長 「んんっ……」

946

947 //SE お互のまんじっ触れ合っ水音

948

949 スイ 「っふああ、ああ、んあっっっ、っふあん、ああ、ああ、ああ、
950 ……っあ、か……い、ちまひ……の、まんじ……も、濡れてる……っ！
951 すっ……っ……っあっ、会長様……感じて、っだっっっるんですか……
952 ……？ ぬるぬる……っ、あっ、い……んっああ……んんっ」

953

954 会長 「んっ、はあっ……だっつ、ん……あんなに、スイのエッチな顔を見続
955 けていたのよ……っ？」

956 んっっ……あなた、が、……っふあ、絶頂に達して、気持ちよめっっじ
957 のっせぬだっじ……欲情を、刺激されて……」

958

959 スイ 「……っっ、わたかったんですか……っ？」

960

961 会長 「っああんっっ……っ！ スイ……いきなり指入れない、で……」

962

963 スイ 「(会長じまんっながら) 私のイッた顔見ながら……一人……
964 っっもっっもっっ……なっっったんでっすかっ？」

965

966 会長 「んああっ、んはっ、…………っ、あっ、んああ、んん…………んんっ、んんっ、
967 スイ…………あん、上手…………」
968
969 スイ 「ああ…………会長…………どんどんエッチな顔になってってます…………」
970
971 会長 「っはあ、はあ、じゃあ…………スイのもっとエッチなお顔も見せて頂いっ
972 かしら…………（指入れる）」
973
974 スイ 「んあああ…………っ！ んっはあああ…………！ 会長…………指、なが…………いっ
975 ……っ！ ふあああ、あ、あ、ああっ…………奥っ…………つま、で…………きて……
976 んああっ、ふあ、あ、あ、あ…………っ！」
977
978 //SE 手マンをしあつ水音
979
980 スイ 「あ…あ…っ！ ……あ…あ…………あ…あ…あ…あ…あ…あ…あ…あ…あ…あ…あ…
981 あ…あああ…ん…………ふ…う…う…う…あ…………あ…っ…っ…く…う…う…う…う…う…う…
982 う…う…ん…………ああ…あ…あ…あ…あ…あ…ん…ん」
983
984 会長 「ん…………んっ！ ふ…う…う…っ！ ……ん…………んっ！ ……う…！
985 ん…う…っ…！ く…ひ…ひ…う…う…う…っ…う…っ…う…ん…ん…ん…！
986 あ…う…っ…！ ん…ん…ん…っ…！」
987
988 スイ 「はあはあはあはあ、かい、ちよ…………気持ち…いい…………っ！
989 気持ち、いいよおお…………！」
990
991 会長 「ん…ふ…っ、ふあ、う…ふ…ふ、素直に言えていい子ね…………ご褒美に、いっ…
992 ……もっど、いい子いい子…………してあげましょっね…………」
993
994 スイ 「ふああああんっ！ んああっ！ ……そ、こ…っ、ああっ、いい、いい
995 いい…………っ！ んはあっ、はあはあ、んああ、あっ、あっ、んはっ
996 ……そ、んな…………擦られ、た…………らっ…………！
997 ……う…う…う、ん…う…ああ、んあっ、んああ…っ！ ……かい…………ちよ…………おお…
998 ……おお…っおお…んお…っ…………っ」
999
1000 会長 「スイ…………っ。ん…う…（キス）」
1001

1038 スイ 「……し、あげ？」
1039
1040 (少し時間経過)
1041 //SE 水道からお湯が出る音……から、蛇口をしめる音
1042 //SE お湯の揺れる音(ちゃぽーんみたいな)
1043
1044 会長 「一緒」湯船につかってみましょう」
1045
1046 スイ 「……「J」、S」
1047
1048 会長 「大丈夫、あなたの心はもう水を克服しているはずよ。
1049 それどころか、すでにちゃんと受け入れてる」
1050
1051 スイ 「……頭ではわかっているのですが、こつした水の塊に入るのが……
1052 久しぶりすぎ……」
1053
1054 会長 「無理はしなくていいわ。じゃあ、お先に失礼するわね。
1055 (湯船に入る息AD) ……はああ。ちょうどいい温度……」
1056
1057 スイ 「……………」
1058
1059 会長 「……？ どうかして？」
1060
1061 スイ 「あっ……、いえ、その……猫足のバスタブでリラックスしていらっし
1062 ゃる会長が……その、画になるなあ……って。
1063 っし、見とれてっまらまった……」
1064
1065 会長 「びびっ、おかしな子。
1066 そんなことしてたら身体が冷えてしまっわよ……」
1067
1068 スイ 「……」
1069
1070 会長 「まだ怖いなら足だけつけて、バスタブに座ってっらんないな。
1071 足湯をするだけでも身体が温まるわ。……どお？」
1072
1073 スイ 「……はい(バスタブに腰を掛ける息AD)」

1146
1147 スイ 「っはあー……っはあー……っはあー……っはあー……っはあー……っはあー……」
1148 ……っはあー……っはあー……」
1149
1150 会長 「んふふ、ちよー……。んはあ、じっ……お湯の中であなたを
1151 後ろから抱きしめて差しあげたかったの、ずーっ」
1152
1153 スイ 「か……い、ちよ……」
1154
1155 会長 「スイ……。温かいわね」
1156
1157 スイ 「は……い……」
1158
1159 会長 「んふふ……」
1160
1161 スイ 「会、長……」
1162
1163 会長 「なぬ？」
1164
1165 スイ 「(泣きながら)私……お風呂に……浸かれています……」
1166
1167 会長 「ええ、スイと一緒にお風呂に入っているよ」
1168
1169 スイ 「ああ……。気持ちいい……」
1170
1171 会長 「よかったわね、スイ……」
1172
1173 スイ 「会長……もっと抱きしめてください。もう一度と帰るならなごめ」
1174
1175 会長 「(抱きしめ息)信じて。そんなじつはもう、私のセッションを教ける前
1176 から……あなたは、とっくに知ってるわ」
1177
1178 スイ 「じゃあ……焼き付けて、私に。水が気持ちいいってじつは……」
1179
1180 会長 「私のじつは……」
1181 スイ 「……っ！ 会長……っ！ (振り向き抱き着いてキス)んっ……っ！」

1182
1183 会長 「たっ……。ん……。ちゅんん、んちゅん……。んぬぬ、んんん……。んん、
1184 1184 ……ちゅん、ちゅん……。んちゅん」
1185
1186 スイ 「はむっ……。っ……。んちゅんぬ、んちゅん……。ぬんっ、んちゅんん、
1187 1187 ちゅん、んちゅんっ、んぬぬ、ぬぬ、んん、ちゅんぬ……。んー。ぬぬ
1188 1188 ……ぬぬ……。ぬぬ……。ぬぬ……。ぬぬ……。ぬぬ……」
1189
1190 会長 「はぬ……。ぬぬ……。ぬぬ……」
1191
1192 スイ 「この感覚……。忘れないうちに、プールに行ってみます」
1193
1194 会長 「ひひひ、そっ」
1195
1196 スイ 「会長……。ありがとうございます……。ー」
1197
1198 //SE 湯船から上がる音
1199
1200 会長 「スイ……。！ 念のために忠告だけど、水着、着て行きなさいな」
1201
1202 スイ 「……。っ！ ああっー！」
1203
1204 会長 「脱衣所に、一式、乾かして置いておかせたから」
1205
1206 スイ 「は、はい……。！ ありがとうございます……。ー」
1207
1208 //SE 浴室の扉開いて……。締まる音
1209 //SE お湯の揺れる音 ちゃぶ……。ん
1210
1211 会長 「……。ひひ」
1212
1213 会長M 「……。合言葉を伝えておくなんて。
1214 ……前水泳部部长はよほどスイを買っていたのね。
1215 人から愛されることも、天下を取る運のひとつ……。か」
1216
1217 会長 「スイ……。がんばって……」

1218 //SF お湯の揺れる音 f.o

1219
1220 終わり

1221 T5 ロサンゼルスオリンピック

1222

1223 ■母親になったスイの後輩宅・夜のリビング

1224 テレビからニュースが流れている

1225 ※テレビから遠く聞こえるような加工がしたい

1226

1227 //ME ニュースのBGM 音

1228

1229 アナウンサー

1230 「では次のニュースです。ロサンゼルスオリンピック、

1231 本日の最初の金メダルは……競泳女子400メートル自由形、

1232 速水スイ選手です。

1233 速水選手は三日後に予選が行われる

1234 競泳女子800メートル自由形でもメダルが期待されており、

1235 もし金メダルを取ることができれば、前回のパリと合わせ、

1236 4つの金メダル保持者となります。

1237 いやあ……

1238

(このあたりからアナウンサーセリフゆっくすf.o)

1240

速水選手絶好調ですね……！

1241 古尾コーチのお父様が、一般の水泳教室で発掘されたとのことですが、

1242 速水選手の小さい頃はどんなお子さんだったんですか？……」

1244

1245 後輩 「わあ、速水先輩だあ……」

1246 子供 「ママのってるひとおー？」

1247 後輩 「……うん！ ママが高校時代にお世話になった人でね……

自慢の先輩なのー！」

1248

//ME ニュースのBGM f.o

1250

1251

完